

酒井 楠雄 元技術課長ご逝去

分子科学研究所技術課の元課長酒井楠雄氏が11月に亡くなりました。謹んでお悔やみ申し上げます。ここでは、酒井さんのご略歴を紹介しつつ、少し思い出に触れてみたいと思います。

酒井さんは、昭和47年に(株)日本真空技術(現アルバック)から高エネルギー物理学研究所に助手として赴任されました。一方、分子研は昭和50年4月に創設されましたが、装置開発室に採用された若い技官たちは技術的にまだ未熟でした。そこで、指導者の立場に立てる人材を探した結果、昭和54年4月に技術課班長として酒井さんが着任されました。この異動は研究教育職から行政職への転換でしたので、給料が下がったというぼやきは後に度々聞くことになりました。しかし、同様に薄給だと愚痴る若手に「技術者は給料だけで働くじゃねーんだよ」と、自らも諭すように語る酒井さんのべらんめえ調は、今でも鮮明に思い出されます。

その後、昭和57年4月に新しくUVSOR施設が創設され、酒井さんの仕事もUVSOR中心になったことで、装置開発室の班長からUVSOR施設の班長に移籍されました。酒井さんは、UVSOR施設でも相変わらず若い技官たちに「(なにに)てやんでい、俺についてこい」と親分的存在を発揮しながら、以降10数年にわたって活躍されました。そして、平成7年10月に内田技術課長の後任として技術課長に就任され、分子研が法人化される直前の平成15年度末まで、約40名の技官組織の長として分子科学研究の技術支援にご尽力されました。

私事ですが、酒井さんとは仕事以外の事でも長くご一緒させてもらったので、思い出やエピソードは語り出したら尽きません。分子研を退職されてから10年、寿命にしてはまだ早いのではないかと思います。心よりご冥福をお祈りします。

(鈴木 光一 記)



2003年要覧より 技術課集合写真(技術課長として最終年度)